

京都大学原子炉実験所(学術公開)を見学してきました!

6月13日、大阪府泉南郡熊取町にある京都大学原子炉実験所の学術公開に参加してきました。

当日は、実験所の概要などの説明を受けた後、放射能廃棄物処理設備、ホットラボラトリ、研究用原子炉等の順番で見学しました。



放射能廃棄物処理設備では、蒸発濃縮処理、凝集沈殿ろ過処理、イオン交換処理の説明を受けました。

職員の方から「実験所で作る放射能廃棄物は適切に処理し、法律で定められた濃度以下に浄化し、安全を確認してから自然

界に排出しているが、最終的に処理できない廃棄物が残り、ドラム缶に密封して保管するしか方法はありません。」と言われ、未来へ放射性廃棄物が残っていくことにショックを受け、原発では比べものにならないほど放射性廃棄物が出ているだろうから、このまま原発が動き続けていくと未来(子孫)に多大なツケをまわすことになることを実感しました。

ホットラボラトリは、原子炉室に接続して設置されており、原子炉照射した物質の各種試験、化学処理、放射能測定等を安全に取り扱う設備で、ホットケープ室には厚さ1mの鉛ガラス窓から内部を見ながら、強放射性物質を安全に取り扱うための遠隔操作装置が設置されたホットセル室が3室ありました。鉛ガラスの窓の厚さが1mもあると聞き、あらためて放射能の危険性・怖さを思いしらしました。



研究用原子炉では、原子炉を取り囲むように重水中性子照射設備、冷中性子源と長波長中性子設備などが設置され、各種実験に使用すると説明を受けました。

見学終了後、同実験所助教の小出祐章先生から「放射能の基準に安全なものはない。私たちは自然界から年間1.5ミリシーベルトの放射能を浴びている。自然界から受ける1.5ミリシーベルトの

放射能の影響で奇形児が生まれる場合もあり、放射能が身体に与える影響は大きいのです。国が決めた年間1ミリシーベルトという基準に何の根拠もありません。」と言われ、改めて放射能の恐ろしさを実感しました。

福島原発事故によって、原発事故・放射能の恐ろしさをテレビ等の報道から知識として知っていたつもりでしたが、やはり原子力施設を見学することでより実感でき、原発は全廃すべきという気持ちが強くなりました。【 INUI 】